

四半期報告書

(第19期第2四半期)

自 平成26年6月1日

至 平成26年8月31日

株式会社イオンファンタジー

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	5

2 役員の状況	6
---------------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	10
四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12

2 その他	16
-------------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年10月7日
【四半期会計期間】	第19期第2四半期（自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日）
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期 連結累計期間	第19期 第2四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自平成25年3月1日 至平成25年8月31日	自平成26年3月1日 至平成26年8月31日	自平成25年3月1日 至平成26年2月28日
売上高 (千円)	23,969,308	23,744,085	46,541,813
経常利益 (千円)	1,686,456	1,782,592	2,645,188
四半期(当期)純利益 (千円)	822,171	848,413	1,117,341
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	915,210	752,261	1,423,283
純資産額 (千円)	20,382,985	21,107,371	20,618,702
総資産額 (千円)	28,375,682	29,182,103	27,978,480
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	45.32	46.77	61.60
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	45.18	46.60	61.40
自己資本比率 (%)	70.7	71.1	72.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△1,204,340	△1,924,308	6,674,050
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,556,185	1,944,408	△8,023,105
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△548,010	27,339	△820,179
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	5,131,543	3,248,722	3,246,115

回次	第18期 第2四半期 連結会計期間	第19期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年6月1日 至平成25年8月31日	自平成26年6月1日 至平成26年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	37.12	36.62

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）は、フィリピンに進出しました。これに伴い、当社は子会社が1社増加しました。

当第2四半期連結累計期間に設立した子会社は、次のとおりであります。

イオンファンタジーフィリピン（AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC.）

この結果、平成26年8月31日現在、当社グループは、当社及び子会社5社により構成されることとなりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成26年3月1日～8月31日）は、「①店舗数の拡大、②ゲーム機の海外調達、③ブランディング推進」といった3つの重点施策を‘成長を支える戦略サイクル’と位置付け、成長と差別化実現に向けた取組みを進めるとともに、利益の最大化に向けたコスト削減や既存事業の強みを活かした新たなチャレンジに着手いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高237億44百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益17億48百万円（同5.6%増）、経常利益17億82百万円（同5.7%増）、四半期純利益8億48百万円（同3.2%増）となりました。

(国内事業)

国内事業は、消費税率引き上げに対し価格転嫁を見送り、原価や販管費の削減を実行いたしました。遊戯機械については海外調達の拡大に加え、使用実態に合わせた耐用年数の見直しによる減価償却費の減少や店舗の労働時間計画に対する進捗コントロールを強化するなど、各種原価と販管費の圧縮を進めてまいりました。

一方、新規出店については外部ディベロッパーやイオン系既存ショッピングセンターへの出店に注力し、当第2四半期連結累計期間においては7店舗の出店となりました。中でも8月に東京スカイツリータウンに出店した‘東京子ども区 子どもの湯’は当社初の都市型施設への出店であり、当該商業施設において人気スポットとなり集客に貢献することができました。

以上の取組みの結果、国内事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は218億7百万円（前年同期比5.2%減）と消費税率引き上げ等により減収となりましたが、営業利益は19億2百万円（同2.1%増）となりました。

(海外事業)

海外事業については、既存進出国での出店を加速し、中国8店舗（1～6月）、マレーシア6店舗、タイ3店舗と合計17店舗の新規出店を行うとともに3子会社とも前年から利益改善が進んでおります。

これにより海外事業の業績は、売上高19億56百万円（前年同期実績9億69百万円）、営業損失1億53百万円（前年同期営業損失2億6百万円）となりました。

なお、海外事業はアセアンでの事業拡大に向け、5月にイオンファンタジーフィリピンを設立するとともに、6月にはカンボジアでのフランチャイズ事業を開始、7月にはインドネシアでの子会社設立を決定しております。

財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、103億30百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億7百万円減少いたしました。主な内訳は、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日のため、売上預け金のうち26億62百万円が翌営業日に決済されたことによる売上預け金の増加（39億92百万円）や関係会社寄託金の減少（60億円）であります。

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、188億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ21億11百万円増加いたしました。主な内訳は、新店及び店舗活性化等に伴う遊戯機械の増加（15億81百万円）であります。

この結果、総資産は291億82百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億3百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、77億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億86百万円増加いたしました。主な内訳は、短期借入金の増加(3億円)や設備支払手形の増加(2億47百万円)であります。

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、3億55百万円となりました。

この結果、負債合計は80億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億14百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、211億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億88百万円増加いたしました。主な内訳は、四半期純利益の計上(8億48百万円)や剰余金の配当による減少(2億72百万円)であります。

経営成績の分析

(売上高)

売上高は237億44百万円となりました。その部門別内訳は、遊戯機械売上高181億63百万円、商品売上高53億57百万円、委託売上高87百万円、その他1億35百万円であります。海外は店舗数の拡大により大幅に増加しましたが、国内事業の売上減を吸収しきれず、前年同期より2億25百万円減少いたしました。

(売上原価)

売上原価は205億21百万円となり、前年同期より3億13百万円減少いたしました。遊戯機械の耐用年数見直しによる減価償却費の減少及び国内事業での消費税率の引き上げに対する積極的な売上原価削減策の実行によるものであります。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は14億73百万円となり、前年同期より4百万円減少いたしました。

(営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は63百万円となり、前年同期より13百万円増加いたしました。営業外費用は29百万円となり、前年同期より9百万円増加いたしました。

(特別損失)

特別損失は28百万円となりました。主な内訳は閉店の意思決定に伴う店舗閉鎖損失及び減損損失等の計上によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、売上預け金の増加及び有形固定資産の取得による支出等の要因により一部相殺されたものの、関係会社寄託金の減少及び税金等調整前四半期純利益を計上したことにより、当連結会計期間末には32億48百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果、減少した資金は19億24百万円(前年同期は12億4百万円の減少)となりました。その主な内訳は、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日のため翌営業日に決済となったこと等による売上預け金の増加39億94百万円及び法人税等の支払11億43百万円などの資金の減少と、税金等調整前四半期純利益17億54百万円及び減価償却費21億82百万円の計上による資金の増加であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果、増加した資金は19億44百万円(前年同期は15億56百万円の増加)となりました。その主な内訳は、新店及び既存店活性化に伴い関係会社寄託金60億円を回収したことによる資金の増加、当社グループの国内外における新店の増加や設備投資による有形固定資産の取得による支出38億59百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果、増加した資金は27百万円(前年同期比は5億48百万円の減少)となりました。その主な内訳は、短期借入金の一時的な増加や配当金の支払であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年10月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,175,688	18,175,688	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	18,175,688	18,175,688	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年6月1日～ 平成25年8月31日	—	18,175,688	—	1,747,139	—	1,650,139

(6) 【大株主の状況】

平成26年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
イオン株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	11,373	62.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	455	2.50
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオ フィスタワーZ棟	403	2.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	304	1.67
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND	268	1.47
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB, UK	151	0.83
マックスバリュ西日本株式会社	広島県広島市南区段原南1丁目3-52	114	0.63
ミニストップ株式会社	東京都千代田区神田錦町1丁目1	114	0.63
イオンフィナンシャルサービス株式会社	東京都千代田区神田錦町1丁目1	114	0.63
イオンモール株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	114	0.63
計	—	13,416	73.82

(7) 【議決権の状況】

①【発行済株式】

平成26年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 30,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,067,300	180,673	—
単元未満株式	普通株式 78,388	—	—
発行済株式総数	18,175,688	—	—
総株主の議決権	—	180,673	—

②【自己株式等】

平成26年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所 有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
株式会社イオンフ ァンタジー	千葉県美浜区中瀬 一丁目5番地1	30,000	—	30,000	0.17
計	—	30,000	—	30,000	0.17

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,246,115	3,248,722
売上預け金	※1 101,669	※1,※2 4,093,752
たな卸資産	※3 1,053,891	※3 1,602,733
関係会社寄託金	※4 6,000,000	—
その他	836,828	1,385,309
流動資産合計	11,238,505	10,330,517
固定資産		
有形固定資産		
遊戯機械(純額)	9,355,109	10,936,161
その他(純額)	3,534,873	3,968,756
有形固定資産合計	12,889,983	14,904,918
無形固定資産		
のれん	824,230	704,232
その他	124,649	190,250
無形固定資産合計	948,880	894,483
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	2,174,925	2,281,689
その他	※5 726,186	※5 770,494
投資その他の資産合計	2,901,111	3,052,184
固定資産合計	16,739,975	18,851,586
資産合計	27,978,480	29,182,103
負債の部		
流動負債		
買掛金	994,840	1,168,368
短期借入金	—	300,000
未払費用	850,116	1,555,235
未払法人税等	1,231,791	1,118,821
賞与引当金	205,231	208,764
役員業績報酬引当金	25,778	22,571
閉店損失引当金	10,956	11,326
設備関係支払手形	1,867,704	2,115,571
その他	1,846,010	1,218,561
流動負債合計	7,032,430	7,719,221
固定負債		
退職給付引当金	32,019	38,255
資産除去債務	220,310	224,506
その他	75,018	92,748
固定負債合計	327,347	355,511
負債合計	7,359,778	8,074,732

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,747,139	1,747,139
資本剰余金	1,709,697	1,704,917
利益剰余金	16,358,418	16,934,733
自己株式	△57,270	△48,099
株主資本合計	19,757,983	20,338,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,592	16,757
為替換算調整勘定	505,267	392,003
その他の包括利益累計額合計	520,860	408,760
新株予約権	66,142	70,256
少数株主持分	273,715	289,663
純資産合計	20,618,702	21,107,371
負債純資産合計	27,978,480	29,182,103

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
売上高	23,969,308	23,744,085
売上原価	20,835,169	20,521,819
売上総利益	3,134,139	3,222,265
販売費及び一般管理費	※ 1,477,818	※ 1,473,761
営業利益	1,656,321	1,748,504
営業外収益		
受取利息	6,914	7,395
為替差益	16,704	38,090
機械仕入割戻	13,778	2,567
その他	11,799	15,094
営業外収益合計	49,196	63,147
営業外費用		
固定資産売却損	16,696	18,177
その他	2,365	10,882
営業外費用合計	19,062	29,059
経常利益	1,686,456	1,782,592
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	2,134	11,326
減損損失	29,815	14,376
店舗閉鎖損失	17,701	2,613
特別損失合計	49,651	28,315
税金等調整前四半期純利益	1,636,804	1,754,276
法人税、住民税及び事業税	653,475	1,074,975
法人税等調整額	160,409	△169,645
法人税等合計	813,884	905,330
少数株主損益調整前四半期純利益	822,920	848,946
少数株主利益	748	532
四半期純利益	822,171	848,413

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	822,920	848,946
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,784	1,164
為替換算調整勘定	88,505	△97,848
その他の包括利益合計	92,290	△96,684
四半期包括利益	915,210	752,261
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	915,498	737,763
少数株主に係る四半期包括利益	△287	14,498

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,636,804	1,754,276
減価償却費	2,373,534	2,182,536
固定資産除売却損益 (△は益)	69,783	53,028
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,109	4,011
受取利息	△6,914	△7,395
減損損失	29,815	14,376
売上預け金の増減額 (△は増加)	△4,073,575	△3,994,370
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△149,470	△550,012
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,768	172,048
その他	231,344	△417,954
小計	110,662	△789,456
利息の受取額	9,748	8,614
法人税等の支払額	△1,324,751	△1,143,466
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,204,340	△1,924,308
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,409,793	△3,859,368
有形固定資産の売却による収入	13,840	29,294
無形固定資産の取得による支出	△18,648	△82,941
長期前払費用の増加による支出	△24,482	△15,437
敷金及び保証金の差入による支出	△100,349	△136,985
敷金及び保証金の回収による収入	96,810	20,432
関係会社寄託金の純増減額 (△は増加)	5,000,000	6,000,000
その他	△1,192	△10,585
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,556,185	1,944,408
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	300,000
配当金の支払額	△543,920	△272,564
少数株主への配当金の支払額	△3,683	—
その他	△406	△96
財務活動によるキャッシュ・フロー	△548,010	27,339
現金及び現金同等物に係る換算差額	77,656	△44,833
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△118,509	2,606
現金及び現金同等物の期首残高	5,250,053	3,246,115
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 5,131,543	※ 3,248,722

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したイオンファンタジーフィリピン(AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC.)を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

従来より、当社及び連結子会社が保有する有形固定資産の遊戯機械の耐用年数については、各資産の使用実態を勘案して2～6年の範囲内で減価償却を行ってまいりましたが、当連結会計年度から開始する中期経営計画におけるオリジナル遊戯機械等導入方針に基づき使用期間を見直した結果、一部の遊戯機械について従来の耐用年数よりも長期間使用する見込であることが明らかとなったため、耐用年数の範囲を2～9年に変更しております

また、遊戯機械の耐用年数の変更を契機に、当社が保有する有形固定資産の残存価額について見直しを行った結果、当連結会計年度より備忘価額に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法と比較して、当第2四半期連結累計期間の減価償却費が746,453千円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益が同額増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

※2. 四半期会計期間末日が休日のため増加した主な資産

当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日のため、下記の科目に含まれている翌営業日に決済される金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
売上預け金	－千円	2,662,465千円

※3. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
商品	586,647千円	1,003,813千円
貯蔵品	467,243千円	598,920千円

※4. 関係会社寄託金

余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。

※5. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
投資その他の資産	2,702千円	2,702千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
従業員給料及び賞与	473,646千円	445,735千円
賞与引当金繰入額	56,507千円	56,654千円
役員業績報酬引当金繰入額	24,508千円	17,994千円
退職給付費用	25,528千円	23,428千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
現金及び預金勘定	5,131,543千円	3,248,722千円
預入期間が3か月を超える定期預金	－千円	－千円
現金及び現金同等物	5,131,543千円	3,248,722千円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)

1. 配当金支払額

平成25年4月16日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	544,017千円
② 1株当たり配当額	30円
③ 基準日	平成25年2月28日
④ 効力発生日	平成25年5月8日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

平成25年10月2日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,078千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成25年8月31日
④ 効力発生日	平成25年10月30日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)

1. 配当金支払額

平成26年4月8日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,098千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成26年2月28日
④ 効力発生日	平成26年5月2日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

平成26年10月3日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,183千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成26年8月31日
④ 効力発生日	平成26年10月30日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	23,000,098	969,210	23,969,308	—	23,969,308
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,295	—	15,295	△15,295	—
計	23,015,394	969,210	23,984,604	△15,295	23,969,308
セグメント利益又は損失(△)	1,862,694	△206,373	1,656,321	—	1,656,321

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,787,793	1,956,291	23,744,085	—	23,744,085
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,841	—	19,841	△19,841	—
計	21,807,635	1,956,291	23,763,926	△19,841	23,744,085
セグメント利益又は損失(△)	1,901,945	△153,440	1,748,504	—	1,748,504

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(耐用年数の変更)

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、当社及び連結子会社は、一部の遊戯機械の耐用年数を変更し、また当社が保有する有形固定資産の残存価額について見直しを行いました。

この変更により、当第2四半期連結累計期間の「国内」のセグメント利益は644,246千円増加し、「海外」のセグメント損失は102,206千円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	45円32銭	46円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	822,171	848,413
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	822,171	848,413
普通株式の期中平均株式数(株)	18,137,902	18,141,602
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	45円18銭	46円60銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
(うち支払利息(税額相当額控除後) (千円))	—	—
普通株式増加数(株)	58,284	65,381
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

第19期(平成26年3月1日から平成27年2月28日まで)中間配当については、平成26年10月3日に、平成26年8月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを取締役会決議しました。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 配当金の総額 | 272,183千円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 15円00銭 |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成26年10月30日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年10月3日

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渡辺 雅子	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	杉本 健太郎	印
--------------------	-------	--------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の平成26年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

会計上の見積りの変更に記載されているとおり、会社は第1四半期連結会計期間より遊戯機械の耐用年数及び有形固定資産の残存価額を変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年10月7日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役片岡尚及び常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当新田悟は、当社の第19期第2四半期（自平成26年6月1日 至平成26年8月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。